

川崎市南部におけるプラタナスグンバイの発生

雑倉 正人*

Occurrence of the sycamore lace bug, *Corythucha ciliata* (Say) in the southern district of Kawasaki City

Masato Hinakura*

プラタナスグンバイ *Corythucha ciliata* (Say)は、北米原産のカメムシ目昆虫で、近年ヨーロッパ・韓国・チリに分布を拡大しているプラタナスの害虫である。わが国では、2001年に名古屋市の港湾地域で発見されて以来、東京・横浜のほか、静岡・愛媛・福岡などの諸県で発生が確認されている。乳白色地に大きな黒紋がある特徴的外見から、日本産の既知のグンバイムシとは容易に区別できる。幼虫・成虫共、葉裏に寄生して吸汁し、葉に脱色斑を生じる。なお、日本や韓国においては、早期落葉・枯死などの激甚な被害は記録されていない。(時広ら, 2003・東京都病害虫防除所, 2003・水野ら, 2004) 水野らの観察によると、名古屋市の気候では年3世代を経過し、成虫は樹皮下に潜入して越冬するようである。

筆者は本種を川崎市南部の公園内と幹線道路において発見したので、記録しておきたい。標本は川崎市青少年科学館に保管されている。

データ

雑木林の一角に植えられたプラタナスにて多数目撃。幸区夢見ヶ崎公園 (幸区市民健康の森)。7. VII. 2007 (写真1)。

街路樹にて多数目撃, 2exs. 採集。川崎区中島。7. VII. 2007 (写真2, 3)。目撃 (プラタナス樹皮下で越冬中), 1ex. 同所。3. I. 2008。

プラタナスは街路樹としてよく知られた樹種であるが、川崎市内では使われている場所が限られ、本種が微小で地味な昆虫であることから、今まで報告がなかったものと思われる。本種がついていたのは、造園樹種として普通に使われるモミジバスズカケノキ *Platanus acerifolia* Wild.である。

なお、本種はプラタナスに好んで寄生するが、クルミ科・ブナ科・クワ科・カエデ科・モクセイ科など、複数の科で寄生の記録があるとされる(東京都病害虫防除所, 2003)ため、今後の動向が注目される。

参考文献

水野孝彦・近藤圭・田中健治・岳原有里・出口和夫, 2004. 名古屋市のプラタナス街路樹における *Corythucha ciliata* (Say)の生活史. 植物防疫所調査研究報告 (40):141-143.

時広五朗・田中健治・近藤圭, 2003. 我が国におけるプラタナスグンバイ(新称) *Corythucha ciliata* (Say) (カメムシ亜目:グンバイムシ科)の発生. 植物防疫所調査研究報告 (39): 85-87.

東京都病害虫防除所, 2003. 平成15年度病害虫発生予察

特殊報 第1号.

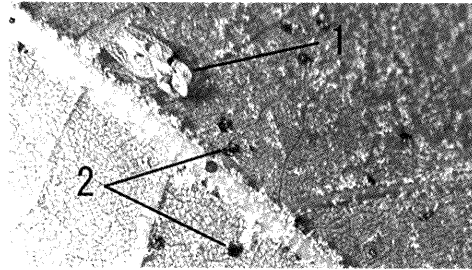


写真1

葉裏に寄生するプラタナスグンバイ(1)およびその糞による斑点(2) (幸区夢見ヶ崎公園にて)

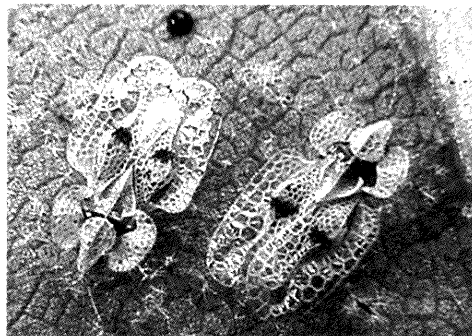


写真2

生時の成虫の拡大写真 (川崎区中島の街路樹にて)



写真3

プラタナスグンバイを確認した道路 (川崎区中島にて)

*特定非営利活動法人かわさき自然調査団

